

泉北部レクリエーションゾーン活用事業 モニタリングキャンプ

12月3日（土）に旧土岐少年自然の家跡地でモニタリングキャンプを行いました。
同ゾーンを拠点として、土岐市の魅力を体感し、この地域ならではのコンテンツは何かにこだわしながら「自然資源の魅力的な有効活用」「新たな交流人口の増加」「美濃焼産業との連携による地域産業の活性化と創造」「ワーケーションなど新たなライフスタイルへの対応」など、皆さんから頂いた声の実現の可能性を探りました。

参加者は、11月27日に開催されたワークショップ（一般公募）の参加者や、陶磁器業界、まちづくり団体などのステークホルダーの皆さんです。

日中は絶好の晴天に恵まれ、皆さんの気分は上昇気流。一日の活動を報告します。

10:00 開会式

10:30 七輪と焚火を使った美濃焼体験

→キャンプ場利用者に手軽な美濃焼体験を提供できるか？

12:00 美濃焼体験を振り返ったワークショップ（Lunch）

→当該エリアでのアウトドア会議の可能性を探る

13:30 定林寺湖散策（時間があれば拠点候補地エリア視察）

→地域住民の日常を阻害しないよう留意するとともに、キャンプ場利用者の広域的な楽しみ方の可能性を探る

16:00 焚火トーク

17:00 Dinner

→飲食店との協力や地元の食材を提供することの可能性を探る

19:00 閉会式





(編集後記)

美濃焼き体験では、七輪や焚火台を使ったもの、水による急冷やもみ殻による炭化焼成などいくつかの条件下で試し、どんな焼き上がりになるのか参加者も真剣な眼差し。焼き上がったぐい飲みを見て、歓喜の声が上がっていました。

散策では、地元の方がよく使う散策路を通して、定林寺湖へ向かいました。定林寺湖では湖を眺めながらコーヒーで一息。寒い外で温かいコーヒーを飲むのもアウトドアの醍醐味です。

焚火トークでは、揺らめく炎を見ながら、土岐市の未来や、自分の考えについて話し合いました。炎を見ると、なぜかお互いの距離が近づき、ついつい本音が出てしまうシーンも。

夕食は、とろろご飯やソースに自然薯を混ぜ込んだり、地域の食材を使ったBBQを頂きました。「贅沢品だと思っていた自然薯がこんな気軽に楽しめるなんて!」「地元で採れた食材はやっぱり最高!」といった声も聞こえ、皆さん大満足でした。

今日の活動内容と体験を振り返った意見を集約し、基本計画にしっかり反映させていきます。